

こんかいのゾーン

SCHEDULE

日付	予定
7/11 水	まちあるきin目白
7/12 木	
7/13 金	プロジェクトミーティング
7/14 土	
7/15 日	
7/16 月	
7/17 火	
7/18 水	定例ミーティング 梅酒・野菜種づくりWS

こんかいの読書案内

隈研吾・清野由美(2011)『新・ムラ論 TOKYO』集英社新書

「『都市』が自壊し、『ムラ』がよみがえる。」近代、そして現代、空間の商品化は莫大な利益をもたらした。しかし、その行き着く先は、土地と建築の人間との切り離しであったと述べる。「場所から逃れず、場所に踏みとどまって、ムラを立ち上げるしか途はないのである。」

著者の2人が下北沢、高円寺、秋葉原、小布施を歩く。「その場所と密着した暮らしがある場所」2人の対話ではそのようなムラが様々な観点から覗かれる。

夢でも幻想でもましてやまやかしてもない、現実の泥臭いムラはこれから見直され続けるだろう。これらの対話は、これからのムラの持つ可能性を、希望を示してくれる。

「熱狂」を可視化する都市へ

4年に一度のサッカーの祭典、ワールドカップがロシアで開催され、連日熱戦が繰り広げられています。日本代表の試合を中心に、眠い目をこすりながら観戦している人も多いと思いますが、みなさんはどこで試合を見ましたか？ グループリーグ第2戦のセネガル戦は都市工学科のある工学部14号館の2階にある巨大モニターを前に小規模な「パブリックビューイング」を実施しましたが、学年の枠を超えてともに応援することでゴールシーンの熱狂も数倍になった気がします。一方、ベスト8進出をかけたベルギーとの素晴らしい試合は家のテレビで2人だけでの観戦となり、もう1人はサッカー熱がなく私の隣で課題を淡々とこなしていたため、最後の30分はじっと固唾を呑んで試合展開を見守っていました。

スポーツ観戦は、普段は関わることのない、同じ街に住む人々が同じ対象に熱狂するという稀有な機会です。都市空間はそのような熱狂を可視化できるでしょうか。日本では渋谷のスクランブル交差点にユニフォームを着た若者が集まり道路交通を妨害する歴史が繰り返されてきたためDJポリスが出勤したり逆に自動車交通が遮断されたりする光景が有名ですが、以前訪れたカナダのトロントでは、NHLのトロント・メープルリーフスやNBAのトロント・ラプターズが本拠地とする屋内競技場エア・カナダ・センターに巨大モニターが設置され、そこから延びるプレミアム通りは多くの市民が集まり観戦することが前提とされており、30万人もの観客が集まったこともあるとのことでした。街の誇りとしてスポーツチームが位置づけられている欧米と、日本では考え方が違うといえそうです。

まちづくりイベントも地域をよくしたいと考える人々がいることを可視化する役割を果たしていますが、スポーツイベントのような「熱狂」を可視化する都市空間のデザインを実践してみることで、日本でも都市における生活体験が変わっていくかもしれないと感じました。



サッカーとは関係ありませんが、次回のまちあるき記事の写真です。どこの写真でしょう…？

こんかいの一言▽井上：北海道での博物館学実習の日程が発表されました。楽しみです。▽櫻本：根津が具体的にってきました。クラウドファンディングにご協力いただいた方ありがとうございます。▽木村：家の中を羽アリが飛んでいて勉強に集中できません。どこから湧いてくるのでしょうか。▽原：川崎まち歩きで丹下健三設計の碑を見つけました。▽秋月：初めてソルダムを食べました。▽：時丸：10年ぶりに幼馴染に会いました。30分で昔に戻れるのは不思議でした。▽久保田：スイスに戻りました。あと1ヶ月チューリヒに滞在します▽植田：誕生日プレゼントにゴルフボールを貰いました。ゴルフやらないけど。